



特定非営利活動法人

自然文化誌研究会 会報誌

145 号

2022 年 3 月 20 日発行号

第 18 回通常総会を開催しました！！

昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。総会の報告についてはホームページに掲載しますので閲覧が可能です。今回ナマステ内でも分けて報告させていただきます。

<2022 年主催事業の予定>

日付	事業名	開催場所	定員	備考
5/3-5	むらまつりキャンプ	小菅村	15	
8/5-11	こすげ冒険学校	小菅村	20	
12/26-28	まふゆのキャンプ	小菅村	15	
4 月中	野草のてんぷらとお茶つき	東京学芸大学		開催見合わせに決定
8 月中	タイ環境学習キャンプ	タイ		開催方法を模索中
9～10 月中	INCH まつり（ライブ）	小菅村	30	

冒険学校『むらまつりキャンプ』 5.3～5.5（2泊3日）開催します！！

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村でキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、野外調理、五右衛門風呂など、多くのプログラムを準備しております。

ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ～！！



日 程：5 月 3～5 日（2 泊 3 日）

場 所：小菅村のいつものキャンプ場

対 象：子どもだけの場合は小学校 3 年生以上、
親子参加の方は幼児も OK です。

宿 泊：一人用テント＋寝袋で個別就寝です

参加費：食費・宿泊費・保険代・教材費・

※奥多摩駅～小菅村間の交通費を含みます。

子ども：会員 ¥25,000 非会員 27,000 円

親子一組：会員 ¥32,000 非会員 38,000 円

※感染対策にご協力ください。

※先着順で 15 人の定員です、お早めどうぞ！！

※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。

※会員になると、今回から会員料金を参加できます。

※参加希望者は、ハガキ・もしくは E-mail に住所・氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、4 月 18 日（金）までに事務局までをお申し込みください。

＜令和 3 年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業です＞

宮本茶園

今年の冬は氷点下の日が続き雪も降る厳しい寒さで、朝はストーブから離れる事ができませんでした。2月半ばから春肥を茶園に運んで施肥していますが、20kgの肥料袋を担いで急斜面を登れなくなったのはショックでした。数mヨロヨロ歩いては袋を置いて一休みとのんびり作業していますが、高齢者になった事を実感した出来事です。

藤野茶業部が直面する課題と重なる記事がありましたので紹介します。農林水産省が発表した2021年産茶の生産統計によると、主要産地の茶の摘採実面積は20年産比900ha減の28800haでした。直近5年(17年比)で5000haの減少で、農家の高齢化や茶葉価格低迷などによる面積縮小に歯止めがかからない状況が続いています(農業共済新聞)。佐野川のような中山間地にある産地は、毎年狭山茶産地一つ分以上の面積が消滅しているのが現実です！

・冬の茶仕事

2月半ばに農協から第54回神奈川県茶園共進会出品茶園審査結果をいただきました。宮本茶園は第50回・52回に引き続いての3等でした。上位入賞者は教員時代に生徒たちと茶園見学した事のある小田原・足柄地区の農家や秦野地区で自園自製高級茶を手掛けている農家です。審査講評に「高度な技術とともに、妥協のない管理が行われており、秀逸でした。園主の茶業への情熱に敬意を表します」とありました。優等になった秦野市のわさびや茶園は新規就農時に見学しましたが、長い年月をかけて丁寧に管理された「茶業への情熱」が伝わる茶園に感動した事を鮮明に覚えています。2017年創業の宮本茶園、まだまだ駆け出しですが高みを目指して精進続けます。

冬の茶仕事は例年通り茶園に出向いては有機資材を畝間に敷き込み、猪が茶樹株元に掘った穴を一つ一つ埋め戻し、春整枝に向けて茶樹上に落ちた枯枝や落葉を根気よく取り除いています。今号は野良仕事ではなく、相模原市学校給食の食材に佐野川茶製品が使用されるにいたる過程を報告します。学校給食に佐野川茶製品を食材として使っていただけないかと、昨秋に相模原市教育委員会学校保健課を訪ねました。担当職員に藤野茶業部佐野川茶製品開発の取り組みをプレゼンテーションして製品サンプルをお渡ししたところ、年が明けて「2022年度1学期の市内全小学校給食に業務用粉末緑茶を使いたい」と連絡をいただきました。

業務用粉末緑茶は1kg入袋ですが、担当職員は「自校調理設備の小規模校では1kg入袋を一度に使いきれません。

宮本透

50gや100gの小袋での納品は可能ですか」と言われます。粉末緑茶は2019年に一番榎ほうじ茶と併せて製品開発したのですが、一般消費者向けの100g入袋にするか業務用の1kg入袋にするかを茶来末社長と話し合った事があります。県農協茶業センター製品「足柄茶粉末緑茶」100g入袋税込価格540円、この金額が一般販売されている粉末緑茶の標準的価格のようです。佐野川茶を100g入袋粉末緑茶に加工・製造した場合の原価計算をすると茶業センター価格では採算が取れず、業務用1kg入袋のみを製造し卸価格5000円と決めたのでした。

教育委員会の意向を受けて100g入袋を製造・納品するために茶来末へ製造経費を問い合わせ、採算の取れる納品価格を決めるために連日藤野支店で打ち合わせをしました。長い時間をかけて納品価格を決めましたが、消費者が購入しやすい価格と採算が取れる価格、一致させるのは本当に難しい事だと痛感しています。

・ちーむゴエモンの活動(2022年醤油仕込み・味噌搾り・味噌仕込み)

2020年「自称」雑穀街道普及会主催で始めた醤油仕込みは早いもので3回目、原料の南部小麦と津久井在来大豆は今年も上岩雑穀畑で栽培・収穫した物を使う事ができました。昨年は1週間で佐野川チームの醤油麹とちーむゴエモンの味噌麹を仕込んで醤油を絞る味噌を作るという超過密日程作業で、不手際が多くヘトヘトに疲れました。その反省を踏まえ今年は醤油仕込み・搾りと味噌仕込みの日程をずらして取り組みました。

千木良のヤギ苑は12月から3月まで毎週どこかのチームが製麹作業を行っています。佐野川チームの醤油仕込みと搾りは1月22日～26日の日程が割り当てられました。正月明けから大豆を選別し小麦を焙煎して準備を始め、段取りを高橋・高村両師匠に相談しました。師匠たちから「醪だけでなく大豆を蒸煮する水にもこだわった方がより上質の醤油ができる」と助言いただき、桐原の軍刀利神社へ名水を汲みに出かけました。2019年冬のピオ醤油仕込み以来久しぶりに訪ねた軍刀利神社、20ℓのポリタンク5個100ℓの名水をいただきました。

厳冬下での大豆浸漬は20時間以上かけて行います。21日早朝氷点下の気温の中、一粒ずつ手選別した津久井在来大豆を四斗樽に入れて名水をたっぷり注ぎ込みました。22日7時過ぎにヤギ苑に



着いて樽をのぞくと氷が張っています！寒さに震えながら名水と浸漬大豆を大釜に入れて火を起こし、のんびりと暖を取りながらこまめにアク取りして大豆が柔らかくなるのを待ちました。蒸煮大豆と挽割焙煎小麦をよく混ぜ合わせて引き込み・床もみ作業、仕込み重量を均等割して麹蓋に盛り麹室で2時間毎に室温・品温管理、4日目が出麹です。醪樽を上岩に運んで2022年佐野川チームが発足しました。26日は醤油搾り、槽から紫色に輝いて流れ出る醤油を見ながら夏に産膜酵母が発生し涼しくなるまで毎日醪樽を観察・管理した事を思い出しました。火入れした醤油は2月2日に瓶詰めし、2021年佐野川チームの解散です。搾りたて醤油は初回メンバー尾崎さんから烏骨鶏卵の差し入れがあり、アミーユ月曜サロンの仲間と卵かけご飯で美味しくしました！



ちーむゴエモン伝統行事の味噌作り、2月15日から玄米を製麹し22日に昨年仕込んだ味噌の樽出しと今年の仕込みを行いました。2020年に志願して担当となった玄米麹作りですが、過去の藤農便りで報告したように出麹に時間がかかり初年度は苦労しました。玄米麹は白米で仕込むより浸漬時間と蒸し時間を長めにするのがコツのようで、今回は浸漬時間24時間・蒸し時間70分で引き込み・床もみをしています。麹室の室温を低めに設定して品温管理にゆとりを持たせ、佐野川で野良仕事をしながら千木良に出向いて手入れをしました。

22日はコロナ禍の平日でしたがゴエモン仲間が集まり、にぎやかに樽出しをしました。私も娘家族が参加して、楽しい時間を過ごす事ができました。娘が小さい頃は百草園にあったやば耕作団の農場で味噌作りを楽しみましたが、高校に勤務するようになって家族と過ごす時間が無くなり、最後は家庭崩壊です。母親となった娘とまた味噌作りできる事など夢にも思いませんでした。残念ながら4歳の孫娘は味噌作りに興味がないようで「飽きたよー！」と言って、父親と相模湖に遊びに行っていました。孫娘が去った後、娘はみんなと一緒に味噌玉を樽に投げ込み味噌作りを楽しんでいました。今年は樽詰めした味噌の表面にさらし布を敷き、その上に少し残した味噌を均等にのばして膜を作り、樽の中の味噌が直接空気に触れないように仕込みました。味噌膜には食塩を振りかけカビが生えにくくしています。片付け作業が終わって解散になりましたが、

娘はお土産に味噌をいただき大喜びでした。来年孫娘が興味を持ってくれる事に期待しながら、今年の味噌作りを終えました！



・雑穀街道普及会の活動（雑穀栽培講習会再開準備）

2016年～2018年ミレット藤野が藤野駅前畑を借りて自給農耕ゼミ雑穀栽培講習会を開催してきました。私は2018年上岩で雑穀栽培を始めて藤野駅前畑での講習会にかかわる事ができなくなり、ミレット藤野も2018年秋に収穫作業をした後は活動を停止してしまいました。以後私は「自称」雑穀街道普及会活動で上岩雑穀畑の様子を藤農便りで報告し、藤野での雑穀栽培講習会再開を願いながら毎号「活動に興味のある方は宮本へご連絡ください」と呼びかけてきました。

昨年1月雑穀街道普及会が発足、上岩雑穀畑の野良仕事は「自称」を削除した活動になりました。木俣師と相模原市長秘書や上野原市長に面会し自給農耕ゼミに参加する中で、佐野川で雑穀栽培講習会を再開する準備を進めています。上岩雑穀畑は麦・大豆・雑穀を輪作しており、収穫物はチームゴエモンの活動で佐野川チーム醤油仕込みの原料や餅つきに使っています。

来年は母校学芸大の創基150年、大学の先生方が創立60年記念で製造した雑穀ビールを復活させる準備をしているようで、実現すれば今年佐野川で栽培・収穫するキビ・アワはその原料となります。ビールに苦みと香りを付けるホップも併せて栽培しています。写真は5回目の麦踏みを終えたばかりの雑穀畑と創基150年記念ビール原料に使うチヌークという品種のホップです。5月の茶葉摘採作業が終わったら雑穀栽培講習会を開催します。雑穀街道普及会活動に参加してくださる皆様と一緒に野良仕事できる事とても楽しみです！



※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。

「黄昏の太宰府」便り（第1回・連載予定）

長濱和代（日本経済大学経営学部教員）

西の空に日没のあと、雲なく夕焼けの赤さが残る時間帯を「黄昏（たそがれ）」と言う（写真1）。福岡県太宰府市は、私がこれまで生活してきた関東圏から、夕日が沈む西の方角に位置する。その太宰府に拠点を置く私立大学の教員になり、ようやく2年が過ぎようとしている。「黄昏」のもう一つの意味は、盛りの時期を過ぎ、衰えの見えだした頃を比喩的に示す。50歳を過ぎた筆者は、人生の折り返しを迎え、人生の黄昏の時期に足を踏み入れつつあることを、この便りを書きながら自覚しているところである。

さて、太宰府で知られるのは、まず太宰府天満宮であろう。「学問の神さま」として知られている菅原道真公の御墓所でもある。道真公は平安時代の学者であり政治家でもあったが、太宰府へ左遷されてこの地で亡くなった。まさに「黄昏」の時期をここで過ごされたと言える。また太宰府は人口7万人余りの地方都市であり、日本の人口減少が加速する中で「黄昏（たそがれ）ていく地域にはなるまい」とする葛藤があるものの、地域創生を必要とする側面もある。

以上をふまえ、「黄昏」の地に赴任し、「黄昏」の時期を迎えつつある筆者が、この地での生活と仕事とともに、それによる右往左往する状況と考えを書き留めることにより、太宰府からの便りとしたい。第1回目である本便りでは、地方への転職とともに、四苦八苦してようやく終えた博士研究との日々を書き綴った。第2回目以降は、地方都市の状況を伝えるレポートとして書き進め、地域の私立大学が如何に生き残るかについての方策や、地域創生の可能性について等をご報告できればと考える。読者の皆さまにご笑覧いただき、さらに相互に思索を深める機会になれば幸いである。

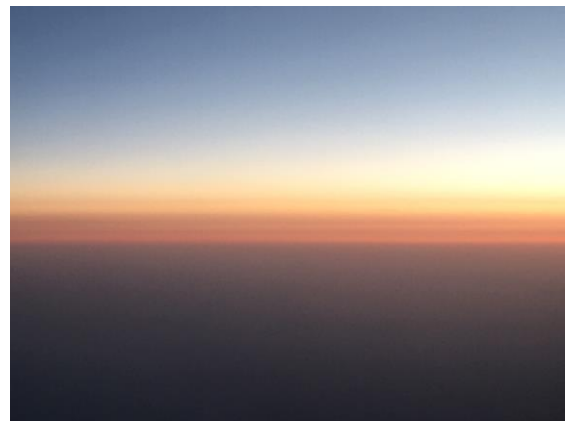


写真1 黄昏（たそがれ）時
（東京上空（機内）から西の空を臨む）

1. どうやって地方で仕事を見つけるか～関東から九州への単身赴任の決意～

福岡に来る（地元では「来福」と使う）直前までは、連れあいと大学生の次男と暮らし、関東圏の複数の大学で非常勤講師をしていた。主たる仕事はインドヒマラヤを調査地とするフィールドワーク（ナマステ 131～134号に連載）と、研究をまとめるための博士論文の執筆であった。2019年に博士論文に関わる3本目の英語論文を出したが、肝心の博士論文が収束しないことから、博士取得が叶わない状況下にあった。研究者的には若手でも、年齢的には若手を超えつつある状況から、大学専任教員の公募に応募しても、面談まで声をかけられることは稀（まれ）なことであった。

2019年の年末に都内の私立大学の公募では、珍しく面談に呼ばれ、最終面談では5名が残った。2名の採用枠があったにも関わらず、不採用となった。採用の可能性は決して低くないと思っていたので無念な気持ちとともに、若手に負けた悔しい気持ちがあった。大学専任教員採用における年齢の壁を、何とか越えられないだろうか。素晴らしい業績を出して「ぜひうちの大学に来てください」というレベルに、自分はまだ遠い。そのとき院生時代の研究室の先輩（当時、東大 CSIS に所属されていた小林博樹先生）からの助言が脳裏に浮かんだ。彼は、日本で就活中のポスドクの留学生に次のように説いていた。

「年に 5～6 つの大学に応募して不採択は当たり前。毎月 5～6 校、いや毎日でも公募の書類を書き続けて、面談にまで持ち込める大学を一つでも作りましょう。」

優秀な若手の学生と比較したら、年上の筆者は公募では負けるが、条件を絞って応募数を増やせば、自分の能力を活かされる大学に出会えるかもしれない。ここでめげずに踏ん張って、専任教員になればと！そして博士論文も決着をつけようではないか！と自分を奮い立たせ、年末から公募を厳選して毎日のように書類を書き始めた。

年が明けると、環境・SDGs に関わる教員募集を行っていた公立大学と私立大学から面談の連絡がきた。（夏から秋にかけての公募が終了して、その玉突き人事により、冬から春の公募は、採択率が高いかもしれない。）場所はいずれも福岡県からで、関東圏の大学は全敗だった。（より大学数の少ない福岡からお誘いがあったのは、たまたまご縁があったと考えたが、学生人口が増加しているのかもしれないし、地方の教員公募の競争率は首都圏よりも低いことも想定される。）福岡行きは、千葉から随分遠いと感じられたが、飛行機なら東京から福岡まで 1 時間 30 分で、実家の名古屋までの新幹線での時間とかかるコストに等しいかもしれない。夫は都内に会社に通う会社員だったので、私が単身赴任するのも面白いかもしれない。末っ子の次男が大学の最終学年を迎えるので、憧れの単身赴任生活が可能かもしれない。などあれこれ考えを巡らせた結果、「我が子たちが巣立つことから、福岡に単身赴任をして、学生たちを成長させます！」という意気込みで、2 つの大学の面談に臨むことにした。

太宰府にある大学の面談後、晩のフライトまで時間があつたので、太宰府天満宮を訪問した。ちょうど2月で梅が美しく咲いていて、まるで自分を歓迎してくれているように見えた(写真 2)。この道真公が眠る場所へ、自転車で通うことができたらいいかもしいかな（自分の LINE（SNS）の背景は、この時に撮影した梅の花である。）等と考えた。

面談の結果、ありがたいことにいずれも採用となった。どちらの大学が良いか、思案していた時、都内の小学校での研究会に参加して、諏訪哲朗先生（当時は日本環境教育学会会長）にお会いする機会があった。先生の「任期なしの大学の方が、条件は良いですね。」とのコメントが、神の声のように聞こえた。さらに収入面では、公立学校よりも優遇されていたから、太宰府を拠点とする日本経済大学の教員として契約書を交わして仕事をさせていただくことを決意した。

家族からは、「念願かなって、ようやく専任教員になれて良かったね。」「コロナが拡散して、在宅勤務になるタイミングで転職できたのはラッキーかも。」と反対はなく、名古屋の親兄弟・友人たちからは「名古屋から千葉、今度は福岡と、東へ西へとたいへんだね」と同情を受けた。故郷を離れ、夫と子どもを残して、地方で単身赴任して仕事をするのは、おそらく大変に違いないということだろう。それは見方を変えれば、家族に気兼ねせず、自分の自由な時間と仕事を持てるということである。今まで一人暮らしの経験すらない自分にとって、ようやく得た自由と選択の権利の保障であり、自己実現への道筋でもあると考えた。



写真 2 太宰府天満宮にて

2. フルタイムの仕事と子育てをしながら、どうやって博士論文を終えるのか

2. 1. 小学校教員から大学教員への転職

筆者の場合、2009 年から 2011 年まで、都内（足立区）で小学校の教員をしていた傍ら、毎週、TX（つくばエクスプレス）に乗って、晩に開催されていた筑波大学の増田美砂ゼミ（国際森政学）に参加して、研究のイロハを学んだ。長期休業中になると、1～2 週間のフィールドワークへ（旅も兼ねて）海外に出た。2013 年 3 月に筑波大学大学院で修士課程（環境科学）を修了して、同年 4 月に東京大学大学院の博士課程に進学した。

博士課程在籍中は、どんな執筆の仕事も引き受けた（筆者の名前を検索いただくと、アースウォッチ・ジャパンでの教育実践報告、アミタ（株）での 12 回分の環境・森林のコラムや、「数理女子」での研究会報告などが、今も検索可能であろう。）。さらに出前授業や非常勤講師（多い年では 5 つの大学の講師を掛け持ち）をこなし、日本環境教育学会では、国際交流委員として国際交流会を毎年実施した。2018 年に満期取得退学した後も、コロナで海外渡航困難になるまでインドへ毎年、調査に出て、論文・報告・コラム・出前講座など、ボランティアの仕事も引き受けて、発信し続けてきた。

子育てに関しては、息子たちが高校・大学と進学して卒業していく中で、要所要所で子どもたちの成長に関わるようにした（夕食を作って用意しておく、子どもの元気がなさそうな時にはこちらから声をかける、学費に関わることは支援する等）。彼らは幼少期の時のように手がかけられないので、自分の時間が増えたのありがたいと思った。だからこそ、「君たちをいつも気にかけているよ。」というオーラを漂わせ、声をかけるようにした。

自分の時間を得ても、博士論文としてまとめることができないジレンマの中、収入的には夫の扶養範



写真 3 日本経済大学にて（2020 年 着任時）

囲内で仕事をセーブして、博士論文に向かい続けた。博士研究の前半は、フィールドワークの楽しさと自分が見聞きしてきたことの発見を書いてきたが、それだけでは博士論文に至らないことを研究後半では痛感した。収集してきたデータを分析しては批判され（構造的面接調査において、その重回帰分析は間違っている、ピットーリヒ法を用いた樹木調査について、その精度はどうなのか？など、領域横断的に研究者からの批判をいただくこと）、研究者として鍛えられた。それが繰り返されるほど闇の中に入り、博論は暗中模索の中、身動きが取れない状況にあった（論文審査の後、命を絶つ

人もいと聞くほどに厳しい状況があるが、これは別の機会に書ける時が来るとよい。）。そして闇の中にある博論を、家族と離れでも一人になって集中して書くことで、光明を見出すことができないだろうか、何とか決着をつけなければならないと考えていた。

そんな状況において、先に書いた九州からの公募は「渡りに船」とも思えた。そして 2020 年 4 月から大学教員へ転身して（写真 3）再びフルタイムの教員となった。

2. 2. 大学での業務、東大課程博士の挫折と筑波大論文博士への道のり

大学では、小学校教員の時には経験したことのない管理職（部長職）での採用だった。（研究・教育に専心するために管理職を希望はしていなかったが、年功序列的には妥当であったと思われる。「部長職に

就いて頂きます。」と言われた時は、私立大学は企業組織であることを実感した。さらに営業活動の一環として「高校訪問に行っていただきます。」と面談でも念を押された。この点については、次号で書きたい。) 初任ではあったが、図書館・情報センター長を任され、図書委員会や情報委員会を率いて各学科長へ報告、教授として教授会(経営戦略会議)への参加、そして教員として1年目は新たに担当する講義を構築する業務があった。さらに4月の着任とともにコロナが拡散したので、大学キャンパスで学生たちに会うことができず、パソコン画面の向こうにいる学生たちとのオンラインによる授業が始まった。

4月半ばを過ぎて、千葉への初帰省の道中、空港で足をすべらせて、右足小指の付け根を骨折した。陸上部出身の自分は毎朝、散歩とランニングを日課としているのに足を骨折するなんて! 見知らぬ土地での忙しい日々がストレスになっていたに違いない。大学の指示により、そのまま千葉の実家で5月末まで休養しつつ、オンライン業務と授業を行った。最初の2ヶ月は、まったく博士論文を進めることができなかった。6月から福岡に戻り、本格的な大学業務の開始とともに博士論文のまとめを始めた。

東大では、博士課程を満期取得退学していたことから、課程博士については2020年12月までに本審査に合格して論文を提出しなければならないという期限があった。指導教員の斎藤馨先生には、毎年海外へ渡航させていただき、ねばり強くご指導を受けて、3本の英語論文を出してきたことに感謝している。同時に、どの領域でまとめて新規性を整理して博士論文としての筋を通すのかについては、自分の力不足により論文審査委員会から合格を得られず、先生には申し訳なく思う。

東大での課程博士としての提出が困難となったことが確定した後、それでも諦めずに博士論文をまとめて完成させる道を探した。筑波大の先生方に相談させていただいたところ、2名の研究者から同じ先生をご推薦いただいた。それは筑波大で林政学研究室を運営している立花敏先生であった。当時、筆者は林野庁で林政審議会の委員をしており、立花先生は同審議会の副会長でもあり、筑波大の林政ゼミでもお世話になったことがあった。そこで立花研究室の門をたたき、年末から審査を開始いただけることになった。自分が悩んでいた博士論文は立花先生の導きにより、林政学の知見から展開して収束させるという試みを開始した。

12月から1月にかけては大学での秋学期の授業が終わりつつあり、年度末のまとめに入っていたことは博士論文を極める追い風となった。その風に乗るために、太宰府の大学研究室で夜な夜な論文を書き続けた(研究室に隣接する大学女子寮に住んでいる。移動が至便であり、夜遅くなくても警備の職員が立ちセキュリティが確保されていることは、いつもありがたく思う。)さらに毎週水曜の午後にオンラインによる1時間の特別ゼミを設定いただき、立花先生とランディープ・ラクワル先生と3人で博論の展開について議論した。(私たちの年齢は近く、先生方は同等の仲間のように接してくださり、自らの考えを深めたることができた。)それにより林政学分野に新たな地平を見いだす覚悟を決め、論文の修正を進めた。研究設計の概略を示すポンチ絵(図1)を作成したのも効果的だった。

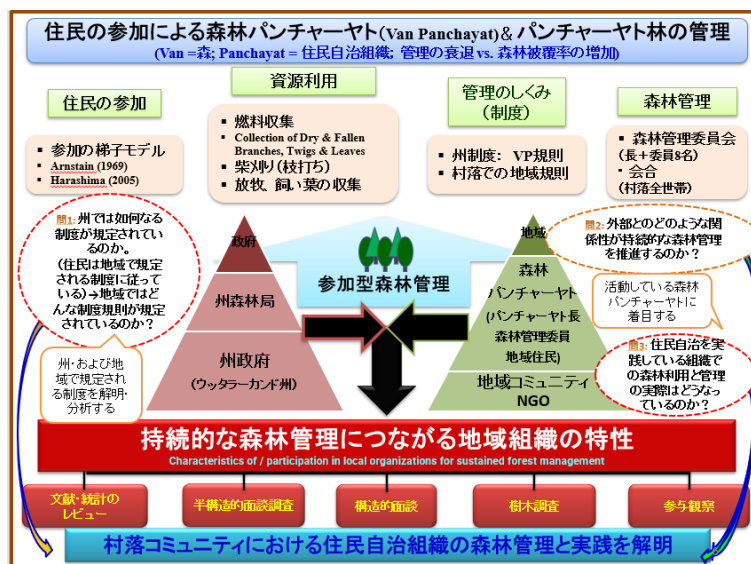


図1 博士研究の概要

最初の審査では、5 本以上の査読有り論文を執筆しているという条件を満たしていることだった。次の中間審査では、副査から重回帰分析について批判が出たことにより通過できなかったことから、数年を要したこの分析を、泣く泣く取りやめることにした。（この分析については、2021 年度から採択された科研費にて再挑戦する。「森林の持続的利用と管理のための設計指針の検討」というテーマで現在、新たに探究中である。）2 度目の中間審査では、森林管理への参加の段階と条件に焦点を定め、小中学校のジュニアでも理解可能な簡単な図表としてデータをまとめて考察した。参加条件についての分析が明瞭となったことが高評価となり（この参加の段階と条件についての結果と考察を、住民参加型森林管理の事例研究として英語論文にまとめ、海外のジャーナルに投稿中）、最終の審査会（本審査）では合格を得た。そして 2021 年 3 月 31 日に博士論文を筑波大学へ提出して、博士（農学）の学位を取得した（写真 4）。小学校教員の頃から研究を始めて、修士課程、博士課程、そして大学教員を経て、10 年余を費やしたフィールドワークに基づく調査と分析を元に、この太宰府の地で博士研究としてまとめることができたのは感慨深いものがある。

次の目標は、日本語と英語で博士論文を出版して、読者の皆さまへお届けできればと考えている（日本林業調査会と農文協プロダクションに論文を書籍として見積っていただき、現在、日本学術振興会へ出版助成を申請中）。その道はさらに険しそうではあるが、この太宰府にて自分がエンパワーメントされるならば、新たな「黄昏」の意味が付与できるのかもしれない。

（第 2 話につづく）

追伸

読者のみなさんは、地方で暮らすことについてのどんな内容を知りたいですか。編集部を通じて、ご要望をいただければ幸いです。



写真 4 ランディープ先生
と学位記（2021 年）



植物と人々の博物館
Plants and People Museum

Vol.26

民族植物学ノオト：第 15 号電子版は 2022 年 3 月末発行予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。

<http://www.ppmusee.org/goods.html> 3) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。『環境学習原論』増補改訂版および『第四紀植物』を公開しました。本年は一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、

『日本雑穀のむら』の読み書きを再開し、順次公開します。これら 4 冊のまとめとして“Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。発行予定：

『降矢静夫書簡集』（降矢静夫・安孫子昭二）、『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）、これらは書き終えたら、電子出版にします。クリンネス（木俣美樹男 2022）は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

<ご案内>

第 6 回環境楽習会 日時：4 月 24 日（日）10：30～12：00 場所：小金井市環境楽習館および ZOOM（定員：会場 20 名、オンライン 100 名）話題：（仮）公園やみどりの価値や機能（30 分、座談会 60 分）。話題提供者：佐藤留美さん（NPO birth パース）

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その17

沖縄や北海道より気分的に近い島・台湾（その2） 佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning

DAY1 5th JAN NGO→TPE
DAY2 6th JAN TPE→KHH★
DAY3 7th JAN KHH
DAY4 8th JAN KHH
DAY5 9th JAN KHH→TPE→NGO

DAY2 (6JAN2017) 台北→高雄

0720 気分よく起床、洗顔およびホステルの設備を改めて確認するための探索。メモ

0830 廃棄物により体調の確認。よし。

0850 移動は午後からなので周辺地域の探索に出かける。曇天だが、半袖で十分な気温。台北は住んでいた高雄より気温が低いのだが、やはり台湾は台湾である。暖かい。



0905 探索の途中で見つけた食堂で魯肉飯（ルウロウファン）25元、米糕（ミーガオ）30元、計55元を食す。台湾の食べ物で外れた記憶はない。（ちなみに臭豆腐もおいしくいただく。）



朝から糖質多めだが、基本歩き回ってエネルギー消費は多いし、食べてすぐ動くので血糖値の急上昇については特に問題はない。

魯肉飯は台湾ではお馴染み、ソウルフードとも言える食べ物である。基本的に脂身多めの豚肉をじっくり煮込み、中華テイストに仕上げたものをご飯にかけて食べるものである。高雄でよくいっていた店の魯肉飯には大きめの豚の

角煮が入っていてこれもまたおいしかった。とにかくこの魯肉飯はどこで食べても外れたことはない。米糕はいわゆる五目ごはん的なおこわだ。いずれも小ぶりの器で分量も軽めでよい。

0930 よさげなコーヒーショップがあったので、ほぼ反射的に入店、ラテ65元、サンドイッチセット25元、計90元をオーダー。さっき食べたばかりなのに、サンドイッチをあっさり付けてしまっていた。ま、旅はエネルギー消費量が多いからと言い訳しつつも明らかに糖質過多である。学生の頃の中国冒険旅行で身に着いた習慣はこれからも抜けそうにない。「腹が減ったから食うのではなく、面白そうなもの良さそうなものを見つけたら食う。」というものだ。もちろん、朝食2回などと身体を作っている格闘家じゃないんだからやめておいた方がいいに決まっているが、胃袋が対応する限り、何でも体験しなければその場所にいる意味がないと信じている。

「Coffee Jack」このコーヒーショップは覚えておこう。朝食を摂るために街歩きをただけなので、ホテルに戻り、少しグダグダする。病み上がりだということを忘れてはいけない。風邪薬と整腸薬を同時に飲む。問題はないであろう。歯を磨いて、荷物整理。部屋を出る前にドアに貼ってあるルームフィーを確認する。750-1000元（約3000-4000円）

1047 チェックアウト。既にネット決済してあるので瞬時に終わる。外へ。陽射しが強い。半袖でないとしんどい。ここから、若者に人気と言われる西門町方面へ探索を進める。

この行程は荷物携行での移動だが、いつもつかっている旅行ザック ZERO - CABIN はとても背負いやすいので問題はない。昨夜の宿の系列である品格西門店を発見。近くに YH もある。宿の選択肢が増えた。



1120 西門町発見。アニメなど日本関連の店多数。

1140 柳丁青茶（オレンジシューズ+緑茶）50元。意外なほどの激ウマ。この店「橘子工坊」は西門町の入り口辺りにある。

それにしても、アニメショップやキャラクターグッズ、日本食の店が多い。中高生のオタクの皆さんには喜んでいただけるだろう。高校卒業と共にアニメの磁場から逃れた身としては若干ほろ苦い感情が沸き起こる場所であった。アニメーション製作による自己表現を目指したアーティストとしてのアニメファンであり、決して部屋中にポスターを張ったり、それっぽい服装で屯したりしたことはない。いわゆるオタクの皆さんとは一線を画していたと、誰も聞いていないのに、心の中で言い訳をしていた。

さて、そうこうしている内にそろそろ昼だ。高雄に移動することにする。

1155 西門站より MRT20 元。1 駅で台北車站へ。

台北車站の構内を高鉄 B3 の表示をたどって、台湾高速鉄道 HSR の乗り場へと向かう。

1210 チケット購入。台北～左營 1445 元

1221 左營に向けて出発。左營は高雄の新幹線駅である。日本の新幹線をベースに作られた台湾新幹線。お馴染み感が半端ない。車内で水を購入。20 元。

1420 左營到着。時刻表チェック。帰りは朝早いので、念のために確認しておく。



1430 MRT に乗り換える。左營～鹽埕埔 30 元



あ、佐々木希。台湾では日本人タレントが広告に出ていたりすることが少なくない。日本の製品なんだから、至極当然のことであろう。



1455 鹽埕埔着。「ただいま」っていう感じだ。

台湾での勤務を終えた後、台湾を訪れるときはいつもの地下鉄駅を使っている。そこから歩いて定宿に向かう。

1502 華王大飯店着。(残念ながらこのホテルは2019年10月に廃業してしまった。クラシックな雰囲気でもあり、それでいてリーズナブルという快適なホテルだったのに。新たな定宿を探さなければならない。) チェックイン3泊23233 円。1011 号室

1508 日本のホテルならこの価格でこの広さはない。今までの少ない経験だけから判断すれば、日本のホテルは同価格でも圧倒的に部屋が狭い。

1620 探索に出かける。台湾のスマホを持っているので、プリペイドの契約のためにこれまたいつものスマホ屋に行く。3日間トーク+ネットで300 元。2 時間後から使えるとのこと。台湾では現地の友人に電話したり、地図を検索したりすることもあるので、確実な通信手段がほしい。これで一安心。ホテルに戻って、旅日記と会計メモを書く。

1840 夕食のため、探索に出かける。まずは地下鉄の駅に行き、交通カードに 100 元チャージ。昔、高雄に住んでいた時から使っていた交通系カードを今でも使っているのだ。(余談だが、ロンドンで使える交通系カードも大事に持っている。もちろん、チャージもしてある。当然、また訪れるからだ。) そのカードでバスに乗り、昔よく通っていた夜市に向かう。令雅夜市、自強夜市が交差する場所で、多くはここにある店で食べていた。近くに行きつけのバーもあり、当時住んでいたマンションから徒歩3分ほどだったから当然とも言える。で、あっさり到着。

1930 「好好清粥小菜」にて夕食 100 元。



1945 夕食を食べたばかりだというのに、久しぶりに牡蠣オムレツが食べたくなり、50 元。初めて食べた時は、かかっているケチャップがやたらと甘くて、「ケチャップはやっぱカゴメっしょ。」とか言っていたのだが、慣れてしまうとこれが病みつきになる。牡蠣オムレツにはこのケチャップだなと感じられる。小ぶりの牡蠣が入ったオムレツで、手軽に食べられる味と量がうれしい。



その後、六合夜市に移動。

すると、偶然台湾の知り合いがいるではないか。その知り合いは宋老師。台湾の大学で音楽を教えている先生。とても明るくて日本語を流暢に使いこなす。マンションの契約の時、通訳に入ってくださったことで知り合った。台湾の音楽のことなど様々なことを教えていただいた。偶然の再会を喜び合い、この後の予定もないことから、高雄にも新しいものがあるから案内してくれるという。近くにあったレンタサイクル55元(OC)を借り、街を疾走。宋老師は車に折りたたみ自転車を積んでおり、入り組んだ街を移動する時にはさっと出して乗りこなす。さすがである。

2130 途中お茶を買っていただき、最初に案内してもらったのが高雄市民図書館。



驚きである。これが図書館！この規模、この美しさ！しかし、驚くのはそこではない、蔵書の充実具合もそうだが、そこで学習する学生の多さとその真剣さ。既に気づいていたが、日本の中高生では追いつけない学びへの姿勢。教育関係者として、日本の将来が案じられる光景だ。

学習スペースというか、読書スペースの広さといい、明るさといい、館内の静かさといい、屋上の展望台といい、カフェといい、ケチのつけどころがない。基本的に大学の図書館や市立図書館などは好きなのだが、特にこの図書館は気に入った。近くにできないものだろうか。いやいや、待っているだけではいつまでたってもできないだろう。ではどうするか。自分で作ればいいのである。箱モノ行政が叩かれて久しいが、作りたいものは作りたい。そうすると以前から構想している(妄想している)私設バスケットボール特化型総合体育館建設に50億円、この高雄市民図書館(58億円)に匹敵する私設図書館建設に60億。クラウドファンディングでは110億は難しいだろう。この高雄市民図書館、実は国の補助なしで建てられている。もちろん、高雄市が立てているので、私設ではないのだが、それにしても企業、宗教団体、市民、外国人などからの莫大な寄付金で建てられたというのだ。この図書館にそれだけの価値を見出し、さらにそれにふさわしい金額をボンと払える財力と志がすごい。(ここでは男気などという、下品で貧相な単語は使わない。そうでなくても、女性にはそういう志がないのかという話にもなるわけで、最近はやりの女性の地位向上とかいうのとは関係なく、そういう男を安く前面に

出す化石的思考が気に入らないだけで。もちろん個人的な発想であり、そういった前時代的な価値観が好みの人がいいても、それについて異議を唱えるものではない。) 図書館の話からかなり違う方向へ話が跳んだ。とにかく、ちょっとした施設建設のために110億ほどの小遣いが欲しいということだ。また、もっと出してくれるというのなら、アフリカ、アフガニスタン、パキスタン辺りへの淡水化プラントによる圧倒的な量の灌漑用水の供給施設も作りたいし、仕方ないからオーストラリア内陸部、最近枯渇しつつある北アメリカの地下水への淡水供給事業もやってあげてもいい。それに伴って大規模植林もしておきたいので、できればもう少し小遣いが欲しいものだ。実は北アメリカの地下水枯渇問題には緊急に対応しなければならない理由がある。アメリカ大陸の中西部～南西部にかけて総面積450,000km²に広がるオガララ帯水層と呼ばれる広大な地下水層があり、それを無計画に無自覚に組み上げまくった結果、完全に枯渇した地域もある。これの何が問題かというと、アメリカの農業を心配しているのではない。アメリカの人々には気の毒だとは思うが自業自得なのでコメントはない。問題はアメリカだけではなく地球にも及ぶ。地下水層がなくなることによって砂漠化が進行する共に地表に受ける熱が直接地温上昇に使われ、その結果、気温上昇の原因になっているのである。水がない分、バッファがないのである。水より土の方がすぐ温まり、すぐ冷える。こんなことは小学校3年生で学習する。二酸化炭素を悪者にして、注目されないようにしているが、地球温暖化の大きな原因の一つは地下水の汲み上げ過ぎ、つまりは地球からの無自覚で無慈悲な搾取にあるのだ。

旅でも登山でも、気を抜くと環境問題について考えてしまう。ま、よからう。

2200 図書館で高雄の若者の向学心に打ちのめされた後、LTRを見に行く。ライトレールと言われたが、路面電車というかトラムというか。街中をゆっくり走る列車がいつの間にかできていた。しばらく、高雄に来ていない内にこんなにも変化していたのか。街中の探索が快適になること間違いなしである。将来的には環状線になるそうだが、現在、四分の一ほどできているようだ。その後、宋老師に油そばをごちそうになり、またの再会を約束して別れた。

2330 ホテル着。すぐ、行きつけのバブに向かう。そこでも知り合いに再会することとなった。

2500 ホテルに戻り、シャワーを浴びて寝る。

(本日の会計) 朝食計145, お茶50,
MRT 計150, TRSR1445, 水20, sim300,
夕食計150, タクシー85, バブ1450
2日目現金支出合計3795円

(クレジット) 台北泊750円, 自転車55円
高雄泊23233円,

(つづく)

○ お知らせと今後の予定

- ・第18回通常総会の報告はホームページに掲載しましたのでご参照ください。
- ・毎年恒例「野草の天ぷらとお茶つみの会」の開催を見合わせました、ご了解ください。
- ・「ちえのわ農学校」の参加者募集については、ちえのわ農学校のホームページをご参照ください。
- ・こすげ冒険学校は、8/5～8/11の6泊7日で予定しています。参加対象は小学校4年生～中学校3年生です。募集については5月を過ぎてから開始しますので今しばらくお待ちください。

○ お詫びと追加掲載

前号のナマステ 144 号の巻頭にて中込卓男代表理事よりご挨拶をいただきましたが、編集者のミスで脱稿してしまいました。改めてお詫び申し上げます。今回、掲載させていただきます。前号の巻頭の挨拶の続きになりますので合わせて読み直していただけることをお願いいたします。



☞2012年8月、タイ環境学習キャンプで、世界自然遺産の HUAI KHA KHAENG の野生生物保護区に行ったときの一幕です。ビジターセンターにはここを訪れる子どもたちのために環境学習の教材がいくつか用意されていました。この写真は職員用のトラの着ぐるみです。実は中に入っているのは私です。隣はタイでいつもお世話になっている若林卓司さんです。ここ2年、彼にもタイの友人たちにも会っていないし、環境学習ワークショップも行えず、寂しい次第です。

それにしてもこの着ぐるみの中、暑かったです。ファンがついていいたけれど、熱帯でやることではない……です。

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。年会費は、1～12 が該当期間となります。

ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。また、基金や寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円

学生会員：3,000円 賛助会員(個人・団体)：10,000円

家族会員：6,000円 準特別維持会員：50,000円

特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員(小菅特別から変更)：1口1,000円から

・成合基金(冒険架検基金)：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：10040-94794501

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 145号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
＜発行日＞2022年3月20日

＜編集＞自然文化誌研究会 事務局

＜発行＞特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>